



ゴギの生息状況調査を開始

ゴギって？

ゴギ (またはコギ) という魚をご存知でしょうか (写真 1)。この魚は、中国地方の源流域に生息するイワナの亜種で、主に島根県の河川に生息しています。他地域のイワナと異なり、背中を覆う白斑や虫食い模様が大きく、頭部にまで及ぶのが特徴の美しい魚です。ゴギと言う名前の由来は、朝鮮半島で「魚」を意味する「コギ」が、半島から渡ってきた製鉄技術者によって定着したのではないかとされています。渓流釣りの対象魚として人気も高いのですが、森林の荒廃や河川改修による生息環境の悪化、乱獲による個体数の減少が危惧されており、しまねレッドデータブックにより絶滅危惧種 (I 類) にも指定され、保護・増殖の必要性が訴えられています。



写真1 ゴギ *Salverinus leucomaenis imbricus*

(撮影: 国立研究開発法人 水産総合研究センター 坪井潤一博士)

基本台帳づくり開始!

ところでゴギの生態などに関する調査は、過去に県内の一部河川で実施されたことはありますが、県内全域における生息範囲の詳細や生息環境の現状、生息密度などの基礎的な情報収集は行われていません。そこで、水産技術センターでは、平成 25 年からホンザキグリーン財団の委託を受けて、生息状況調査を開始しました。つまり、ゴギの生息基本台帳づくりと言ったところでしょうか。調査方法は、エレクトリックショッカー (電撃式



写真2 潜水目視観察

漁具)による採集や潜水目視観察(写真2)によって行います。観察、採集したゴギは採集尾数の計数のほか、全長、体重などを現場で測定し、必要な情報を収集した後は元の川に戻してやります。こうすることで、その溪に生息するゴギの様子(生息密度、全長組成など)を知ることができます。

進捗状況

平成25年度は斐伊川水系を中心に、2水系13地点で調査を行いました。その結果、10地点でゴギの生息が確認されました。そのうち9地点では1歳以下と考えられる幼魚も採集され、自然繁殖が行われていると考えられました(写真3)。しかし、1m²当たりの生息尾数は0.008~0.142尾(平均0.058尾)と概して低く、過去の調査で生息が確認された地点の一つでは、採捕できなかった地点もあり、決して楽観できる状況ではないことが分かりました。また、生息環境についても、調査地点に建設されていた砂防堰堤のほとんどに魚道が設置されておらず(写真4)、砂で埋まった淵も見られるなど、ゴギにとって厳しい環境に置かれていることが確認されました。



写真3 ゴギの幼魚



写真4 魚道の無い砂防堰堤

今後の課題

イワナ・ヤマメなど溪流魚の増殖は、種苗放流によって行われるのが一般的ですが、ゴギはほかの魚種と異なり種苗生産が大変難しく、放流は殆ど行われていません。このため、島根県に生息するゴギは、学術的にも貴重な在来集団(それぞれの川固有の遺伝情報を持った魚)であると考えられています。在来集団を守りながら増やすには、種苗放流以外の方法を導入する必要があります。なぜならば、異なる遺伝子タイプの魚が放流されると、もともと生息していた魚との間で交雑がおき、川固有の遺伝情報を持った魚は永久に失われてしまう可能性があるからです。その川に生息しているゴギを親にすれば良いという考えもありますが、溪ごとに異なる遺伝子を持つと言われるイワナ(この場合ゴギ)を集団ごとに管理することは膨大な経費と手間がかかり、現実的ではありません。管理手法として、産卵場造成や禁漁区設定、生息環境改善などが考えられますが、川ごとに適した方法を検討する必要があります。

今回の生息状況調査によって得られた情報は、貴重な在来集団を保護する取り組みに役立つはずですが、今後も調査を継続し、「島根のゴギ生息基本台帳」を完成させたいと考えています。

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp